

〔トリフルラリン乳剤〕

農林水産省登録 第21692号

性 状：黄赤色澄明可乳化油状液体

毒 性：普通物

危 険 物：第4類第2石油類 III

有効年限：5 年

包 装：100 ml×60、500 ml×20

# STトレファノサイド®乳剤

有効成分：トリフルラリン……………44.5%

除草剤分類 **3**

トレファノサイド®はゴーワン クロップ プロテクション社の登録商標です



「住友化学農業ガイド」の見方：i-農力サイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。  
本剤の最新情報：こちらのQRコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

## 〔適用と使用方法〕

適用雑草：一年生雑草（ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）。

直播水稻はノビエ。

いんげんまめは一年生イネ科雑草。

作物名	使用時期*	10アール当り使用量		総使用回数*	使用方法
		薬量	希釈水量		
ぶも うも な し ①	春～秋期雑草 発生前但し30日前	300～400 ml		2回	全面土壌 散布
りんご ①	春期雑草発生前 但し150日前				
キャベツ・はくさい② (直播栽培)	は種直後	200～300 ml	100 ℓ	1回	全面土壌 散布
キャベツ・はくさい (移植栽培)	定植前 (植穴掘前)				
	定植直後				全面土壌 散布
なたね	は種直後				畦間土壌 散布
レタス ③ (露地栽培)	定植前 (植穴掘前)			2回	全面土壌 散布
非結球レタス (露地栽培)	定植直後				
ねわ け ぎ	定植後雑草発生前 但し30日前	300 ml		1回	全面土壌 散布
らつきょう (露地栽培)	植付後、春期雑草 発生前但し120日前				
ト (露地栽培)	定植前 (植穴掘前)				
ミ (露地栽培)					
ピ (露地栽培)	定植直後			1回	畦間土壌 散布
とうがらし類 (露地栽培)					
ふ き	萌芽前 雑草発生前			#8	全面土壌 散布
しゃくやく (薬用)					

作物名	使用時期*	10アール当り使用量		総使用回数*	使用方法
		薬量	希釈水量		
すい か ④ (トンネル・マルチ栽培)	定植前(植穴掘前) (マルチ前)	200~300 ml		2回	全面土壌 散布
	45日前までの生育期 (トンネル除去前)				
すい か (露地栽培)	定植キャップ後 但し45日前				
漬物用すいか⑤ (トンネル・マルチ栽培)	定植前(植穴掘前) (マルチ前)	150~200 ml		1回	全面土壌 散布
漬物用メロン⑤ [露地栽培(トンネル・ マルチ栽培)]					
メロン④ [露地栽培(トンネル・ マルチ栽培)]	45日前までの生育期 (トンネル除去前)	200~300 ml		2回	畦間土壌 散布
ズッキーニ	定植直後	300 ml			
しろうり⑥ (露地栽培)	定植前 (植穴掘前)	150~200 ml			
きゅうり⑦ [露地栽培(直播栽培)]	は種直後				全面土壌 散布
きゅうり⑦ [露地栽培(移植栽培)]	定植前 (植穴掘前)	200~250 ml			
	定植直後				畦間土壌 散布
なす⑧ (露地栽培)	定植前 (植穴掘前)	200~300 ml	100 l	1回	全面土壌 散布
実えんどう (露地栽培)	は種直後	300 ml			
さやえんどう (露地栽培)					
さやいんげん (露地栽培)					
さやいんげん⑨ (露地・マルチ栽培)	は種前 (マルチ前)	200~300 ml			
だいこん⑩ (露地栽培)	は種直後	150~200 ml			全面土壌 散布
はつかだいこん (露地栽培)					
にんじん					
ごぼう⑪ (露地栽培)					
葉ごぼう⑪ (露地栽培)					
しょうが 葉しょうが	植付直後				
たまねぎ (本畑)	定植後 但し75日前	200~300 ml		2回	
アスパラガス⑫	萌芽前、収穫打切後 (雑草発生前)			1回	
かんしょ⑬	挿苗前雑草発生前			本剤 : 1回 トリフルリン : #1	

作物名	使用時期*	10アール当り使用量		総使用回数*	使用方法							
		薬量	希釈水量									
かんしょ ⑬	挿苗後雑草発生前 但し 60 日前	200~300 ml	100 l	本 剤 : 2回 トリフルリン : #1	全面土壌 散布又は 畦間土壌 散布							
さといも	植付後但し 植付 7 日後まで	300~400 ml			1 回	全面土壌 散布						
やまのいも やまのいも (むかご)	植付直後						畦間土壌 散布					
	生育初期 但し、植付 30 日後まで											
だ い ず め ⑭ え だ ま め ⑭	は種前	200~300 ml			本 剤 : 1回 トリフルリン : #7	全面土壌 混和						
	は種後出芽前					全面土壌 散布						
	定植前 (植穴掘前)					畦間土壌 散布						
	生育期但し、 45 日前											
らっかせい	は種直後				1 回	全面土壌 散布						
ごま ⑮	は種後出芽前	200 ml				全面土壌 散布						
なばな ⑯ (移植栽培)	定植直後					畦間土壌 散布						
なばな類 ⑯ (直播栽培)	は種直後	150~200 ml				1 回	全面土壌 散布					
非結球あぶらな科 葉菜類 ⑯												
かぶ ⑯		150 ml										
食用べにばな (花) べにばな	は種後出芽前	300 ml							全面土壌 散布			
みつば												
べにばないんげん	は種後出芽前											
ひまわり (種子) ひまわり												
あすっこ (移植栽培)												
ブロッコリー	定植前 (植穴掘前)	200~300 ml		本 剤 : 1回 トリフルリン : #2	畦間土壌 散布							
はなっこりー (移植栽培)	定植後但し、 21 日前											
まくわうり (露地栽培 (トンネル・マルチ栽培)) ④	定植前 (植穴掘前) (マルチ前)				本 剤 : 1回 トリフルリン : #3	全面土壌 散布						
	45 日前までの生育期 (トンネル除去前)					畦間土壌 散布						
かのこそう	定植後 萌芽前 (雑草発生前) 但し 120 日前	300 ml			1 回	全面土壌 散布						

作物名	使用時期*	10アール当り使用量		総使用回数*	使用方法
		薬量	希釈水量		
こんにゃく	植付直後、中耕培土直後(萌芽前)	200~300 ml	100 ℓ	2回	全面土壌散布
茶 ⑰	1番茶萌芽前、摘採後(雑草発生前)但し摘採40日前まで	300~400 ml			
桑(苗床) ⑱	は種後、伏込後(挿木)	200~300 ml			
桑(本畑) ⑱	桑発芽前、春切後、夏切後(雑草発生前)	300~400 ml			
ゆちゅーりっしゅやくやく	植付後~萌芽前	200~300 ml		1回	畦間土壌散布
すいせん	萌芽前				
き(露地栽培)	定植後				
たばこ ⑲	大土寄直後	200~250 ml		2回	畦間・株間土壌散布
樹木類	植付後、生育期(雑草発生前)	200~300 ml			
林木苗〔すぎ、ひのき、あかまつ、からまつ(播種床)〕 ⑳	は種後~生育中	300 ml		2回	全面土壌散布
林木苗〔すぎ、ひのき、あかまつ、からまつ(床替床)〕	床替後~生育中				
直播水稻 ㉑	乾田直播のは種後出芽前(ノビエ発生前)(入水15日前まで)		1回	乾田状態で全面土壌散布	
麦類(小麦を除く) ㉒	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く) #4	200~300 ml	2回	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	
	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く) #5			全面土壌散布	
小麦 ㉒	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く) #5			雑草茎葉散布又は全面土壌散布	
	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く) #4				
	北海道の一年生イネ科雑草 #6				
あずき(北海道を除く全域)	は種後出芽前		1回	全面土壌散布	

作物名	使用時期*	10アール当り使用量		総使用回数*	使用方法
		薬量	希釈水量		
にんにく	植付後、春期中耕 除草後但し90日前	300ml	100ℓ	2回	全面土壌 散布
	植付前			本剤 : 1回 トリフルリン : 2回	
甘 草	出芽前 (雑草発生前)	200~300ml	100ℓ	3回 (1年間に1回)	全面土壌 散布
	定植後萌芽前~ 萌芽揃期 (雑草発生前) 但し、60日前				
いんげんまめ (北海道)	は種後6日~ 出芽2日前まで	200~300ml			畦間土壌 散布
し そ	定植後雑草発生前 但し、30日前	300ml			畦間土壌 散布
コリアンダー(葉)	は種後出芽前 (雑草発生前)	200ml			全面土壌 散布
お う ご ん	定植後雑草発生前 但し、90日前	200~300ml		1回	全面土壌 散布
ま お う	は種後出芽前	300ml			畦間土壌 散布
ほ う き ぎ	一年生雑草(ツク クサ科、カヤツリ グサ科、キク科、ア ブラナ科を除く) #9	200~300ml			畦間土壌 散布
樹 木 等 (公園、庭園、堤とう、 駐車場、道路、運動場、 宅地、のり面等)	雑草発生前	300~400ml		3回	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に全面 土壌散布

#1: 3回(挿苗前は1回、挿苗後は2回)

#2: 2回(定植前は1回、定植後は1回)

#3: 2回(定植前は1回、生育期は1回)

#4: は種後出芽前~3葉期(雑草発生前~雑草発始期)

#5: 生育期(雑草発生前)但し、45日前

#6: 小麦出芽後~3葉期(イネ科雑草1葉期まで)

#7: 2回(全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回、畦間土壌散布は1回)

#8: 5回(1年間に1回)

#9: 定植後 但し、定植14日後まで

使用方法: 上記薬量は10アールに全面散布する場合の薬量。うね床や畦間での散布は、散布する実面積当たりの薬量を使用。

実散布面積10アール当り約100ℓの水にうすめ雑草発生前に均一に散布。

注 意: 作物欄中の番号は効果・薬害等の注意、各作物毎の注意の番号に対応。



## 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。
- マルチ、トンネルやハウス栽培では薬害をさけるために特別の注意が必要であるので、使用する前に必ず農業技術者によく相談する。
- 野菜及び畑作物に使用する場合には、砕土及び整地はていねいに行っておく。また覆土は細かく砕いた土を用いてうすすぎないようにていねいに行う。特に、麦類、さやいんげん、いんげんまめ、あずきは薬害を生じやすいので、覆土深が2~3cmになるように注意する。

- 間引き菜、つまみ菜に使用しない。
- イネ科雑草に比べ広葉雑草に対してはやや効果が劣るので、イネ科一年生雑草の優占するほ場で使用するのが効果的である。
- 畑作物は種後に使用する場合には、作物が出芽してからの使用は葉害を生じるおそれがあるのでさける。
- 畦間、株間に使用する場合には、作物にかかると葉害を生じるおそれがあるので、かからないように使用する。また実散布面積に応じて使用量を調節する。
- 定植後の畦間土壌への散布は定植直後から雑草の発生する前までに行う。
- 土壌が非常に乾燥しているときは、効果が劣る場合があるので、土壌を適当に湿らせるか、降雨の後に散布を行う。
- 各作物毎に下記の注意を守る。
  - ①ぶどう、りんご、もも、なし：ハウス栽培では使用しない。
  - ②直播のキャベツ、はくさい：露地栽培（無マルチ）で使用使用する。
  - ③レタス：6葉展開期以前では葉害を生じるおそれがあるので使用しない。
  - ④すいか・メロン・まくわうりのトンネル・マルチ栽培：葉害をさけるために特に次の点に注意して使用する。
    - ・定植7日以上前に散布し、マルチをかけ、定植の数日前に定植箇所のマルチを切開し、気化した薬剤を飛散させてから定植する。
    - ・定植後、株のまわりのマルチを本剤のかかっている土壌でおさえ、キャップは使用しない。
    - ・生育期の畦間（トンネル間）に散布するときは、茎葉にかからないようにするために必ずトンネル除去前に散布する。
  - ⑤漬物用すいか・漬物用メロンのトンネル・マルチ栽培：葉害をさけるために特に次の点に注意して使用する。
    - ・定植7日以上前に散布し、マルチをかけ、定植の数日前に定植箇所のマルチを切開し、気化した薬剤を飛散させてから定植する。
    - ・定植後、株のまわりのマルチを本剤のかかっている土壌でおさえ、キャップは使用しない。
  - ⑥しろうり：葉害をさけるために、壤土～埴土では葉量を厳守し、砂壤土では低葉量で使用使用する。砂土での使用はさける。
  - ⑦きゅうり：葉害をさけるために次の注意を守る。
    - ・砂土～砂壤土での使用はさける。
    - ・地這栽培では使用しない。
    - ・直播きゅうりの場合には、は種後の覆土を厚くし、まきつぼをおがくず、切りわりなどで覆った後に土壌全面に散布する。
    - ・定植前に使用する場合には、植穴を掘る前に使用する。
  - ⑧なす：葉害のおそれがあるので、定植3日前までに使用する。
  - ⑨さやいんげん：は種前マルチ前に使用する場合には、露地マルチ栽培で使用し、は種部分のマルチ開孔後2～3日してからは種し、無処理の土で覆土する。
  - ⑩だいこん：露地栽培（無マルチ）で使用使用する。葉害をさけるために、葉量を厳守し、砂土では低葉量で使用使用する。
  - ⑪ごぼう・葉ごぼう：初期の本葉に葉害症状を生じることがあるが、その後の生育には影響はない。
  - ⑫アスパラガス：加工用（ホワイト）栽培では培土直後または培土くずし後に使用する。
  - ⑬かんしょ：葉害をさけるために、活着するまでに使用する。有機質含量の少ない砂質系土壌では葉害を生じるおそれがあるので使用しない。
  - ⑭だいず・えだまめ：葉害をさけるために、マルチ栽培では使用しない。
  - ⑮ごま：以下のことに注意する。

- ・散布後に降雨が予想される場合には、使用をさける。
- ・本剤を使用した場合には初期生育の抑制及び本葉に薬害症状を生じるが、その後の生育には問題ない。
- ・重複散布は薬害を助長するためさける。
- ・薬量を厳守し、砂土での使用はさけ、耕起、砕土をていねいに行い、種子が露出しないようていねいに覆土を行う。

⑯非結球あぶらな科葉菜類、なばな類、かぶ：薬害をさけるために、次の点に注意して使用する。

- ・薬量を厳守し、砂土での使用はさけ、覆土はていねいに砕土した土壌を用いて厚めに行なう。
- ・雨よけ施設で使用する場合は薬害をさけるため、両すそを上げ通気を良くし、加温はさけ、低薬量で使用する。
- ・は種前に十分灌水し、薬剤散布後1～2日間は灌水しない、また高温時の散布はさける。
- ・密閉した施設及びトンネル栽培での使用はさける。

⑰茶：なるべく茶にかからないように散布する。

⑱桑：給桑葉にかからないように注意する。なお、春切後又は夏切後は腋芽期までに使用する。

⑲たばこ：大土寄直後に使用する場合には、茎葉にかからないよう畦間に均一に散布する。

⑳林木苗畑：は種床で使用する場合には、出芽直後の使用はさける。

㉑乾田直播水稻：薬害をさけるため覆土は2～3cm以上にする。ノビエ以外の雑草には効果が劣るので、ノビエ優占田で使用する。

㉒麦類：・水田裏作で使用する場合には、排水不良田等土壌がしめりすぎていると砕土や覆土が不十分となり効果むらや薬害の原因となることがあるので、過湿状態での使用はさける。

・大麦には薬害を生じやすいので、砂質土壌での使用をさける。

- 散布薬液の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないように十分に注意して散布する。
- 発生している雑草には効果がないので、雑草の発生前に均一に散布するか、又は中耕除草・培土等により除草してから散布する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



## 安全使用上の注意



- 自動車等に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意する。
- 靴、作業着等に付着すると着色するので取り扱いに注意する。
- 誤飲などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせる。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮ふに対して刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。

(2023年2月22日現在の内容) 住友化学の農業支援サイト:i 農力<https://www.i-nouryoku.com/>

- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 水源池等に本剤が飛散・流入しないように十分注意する。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意する。
- 火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管する。

「[農薬ガイドの見方](https://www.i-nouryoku.com/prod/search/) (<https://www.i-nouryoku.com/prod/search/> [農薬ガイドの見方.pdf](#))」の「3. 注意事項：(1)、(2)、(3)、(4)－G」も合わせてお読み下さい。

## 〔品目特性〕

- 本剤は非ホルモン型、吸収移行型の土壌処理除草剤です。